

くらし塾 さんゆう塾

巻頭特集 くらし再発見

動植物と共に良く生きる

会長対談 よこはま動物園ズーラシア園長 増井光子



そこが知りたい! くらしの金融知識

知っておこう 年金の基礎知識 森萩 忠義

金融教育の現場レポート

クレジットカードを教材にした金融教育 千葉県千葉市立轟町中学校

知るぼると最前線

「金融教育フェスティバル2008」を開催

今すぐ役立つ きんゆう知恵袋

多重債務問題の背景と現状 菅 美千世

くらし再発見

巻頭特集では、多忙な生活の中でふと忘れがちだけれど大切なことをテーマとした、「くらし再発見」シリーズをお届けします。今回は、よこはま動物園ズーラシアの増井光子園長と金融広報中央委員会・豊田武久会長の対談です。約半世紀にわたり、動物とかわって来た増井園長のお話をうかがいました。

対談実施日：平成20年1月24日（木）〔肩書きは当時のもの〕



動植物と共に 良く生きる

豊田会長 本日は、お忙しいところ、お時間をいただきまして、ありがとうございます。増井園長は、大学では獣医学部を専攻され、その後はずっと動物とのかかわりを軸に、活躍の場を広げていらつしゃいますね。小さいころから動物に興味を持たれていたのですか。

増井園長 幼少期は、大阪市内に住んでいたのですが、終戦間際の小学校二年生のときに、大阪の生駒山のふもとに引っ越しました。周りは水田と山が広がる自然に恵まれた環境で、家畜や小さな動物も身近な存在でした。そのような生活でしたから、自然に生き物を見たり触れたりするのが、好きになっただけです。その後、獣医となり、動物園に勤務する原点が、このときの生活にあったと思います。

豊田会長 実は私も大阪市出身で、子どものころの一時期、郊外に疎開した経験があります。そのころは私も自然豊かな環境の中で、元氣いっぱい遊んでいました。そのときの影響か、現在、植物が好きで、今では自分の家の庭にさまざまな野草を植えたりしています。

子どものころから動物は 身近な存在

目次

■巻頭特集 くらし再発見

会長対談

動植物と共に良く生きる

よこはま動物園ズーラシア園長 増井 光子



■金融教育の現場レポート

クレジットカードを教材にした 具体的な金融教育の展開

千葉県千葉市立轟町中学校



3

■連載 江戸のくらしと金銭観 一第4回一

10

現在に受け継がれる、江戸の経済・商い
「江戸町民の共有金は
明治のまちづくりにも役立ちました」
江戸東京博物館館長 竹内 誠

13

■そこが知りたい! くらしの金融知識

知っておこう 年金の基礎知識
「身近な問題として、
年金の仕組みを理解しましょう」
社会保険労務士 森萩 忠義

18

■将来へのまなざし

「父親の丁寧な仕事振りを
見て、職人を目指しました」
庭師 星 宏海



20

■知るぽると最前線

「金融教育フェスティバル 2008」を盛大に開催

22

■今すぐ役立つ きんゆう知恵袋

26

多重債務問題の背景と現状
(社)全国消費生活相談員協会 常任理事 菅 美千世

28

■趣味の散歩道～生活いきいき～

ウォーキング
「歩く道すがら」を楽しみましょう
ウォーキングインストラクター 奥野 清歩

30

■知るぽるとラウンジ

都道府県金融広報委員会の活動紹介
金融広報アドバイザー紹介

33

■読者のおたよりコーナー

知るぽるとクイズ

34

■金融広報だより

平成20年度の「活動方針」を発表しました
編集後記

35

■知るぽるとミュージアム

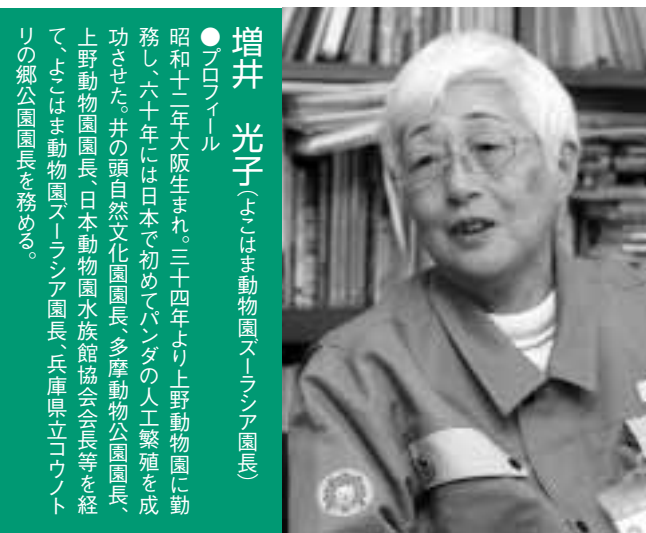
ポスターが語る昭和のくらし



豊田 武久（金融広報中央委員会会長）
●プロフィール
昭和十八年生まれ。東京大学法学部卒業後、日本銀行入行。那覇支店長、調査役、金沢支店長、人事局長、清水建設（株）常務取締役、（株）整理回収機構副社長を経て、平成十八年三月金融広報中央委員会会長に就任。（肩書きは当時のもの）

て、自己啓発の場所にもなるといinaと思います。例えば、生物の多様性について知っていくことによつて、人と動物のかかわりや、地球環境などについて考えるきっかけとなつてもえればと考ええています。実際に動物に触れることによつて、情操教育につながる面もあるでしょう。

豊田会長 おっしゃるとおりですね。教育や自己啓発の場というのは、いろいろなところがその役割を果たせると思います。私も金融広報中央委員会でも、「金融教育」の実践を広げる支援活動をしています。が、「教室の中」や「特別な授業」に限らず、幅広い場面で実践していただけるよう工夫しています。



増井 光子（よこはま動物園ズーラシア園長）
●プロフィール
昭和十二年大阪生まれ。三十四年より上野動物園に勤務し、六十年には日本で初めてパンダの人工繁殖を成功させた。井の頭自然文化園園長、多摩動物公園園長、上野動物園園長、日本動物園水族館協会会長等を経て、よこはま動物園ズーラシア園長、兵庫県立コウノトリの郷公園園長を務める。

従来の動物園とは異なる コンセプト

豊田会長 そんなこともあり、今日は、豊かな自然に囲まれたこの環境で、増井園長と、お話しさせていただくのを楽しみにしていました。

実は、私はこれまで、こちらの動物園を何度か訪れていますが、いつもスケールの大きさに感動していました。

季節の花々や、木々なども多く植えてあり、植物好きにはうれしい限りです。この広い敷地の中で、植物に囲まれて動物たちはゆうゆうと生活しているさまが、見ても分かります。本来の自然の状態が再現されているからこそ、動物

物たちも活発に動いていますね。自然界の仕組みや、動物の動きなどを見ることができると、大変勉強にもなります。

増井園長 当園も、今年でオープンから九年目を迎えます。近年こそお客さまに認めていただいているのですが、開館当初は批判もありました。五〇ヘクタールという広大な面積の中に、動物が方々に放されているので、動物園なのに動物を間近に見られないとの批判でした。

豊田会長 その意味では従来の動物園とまったくコンセプトが違いますね。

増井園長 従来の動物園は、世界から珍しい動物をできるだけ多く集めて、檻飼育して展



環境問題は、悲観するよりも まず行動することが大切

豊田会長 ところで、地球温暖化をはじめとした環境問題が社会的に大きな問題となっていますね。動物園の役割の一つに希少動物の繁殖があるとお聞きしています。動物の種類や数が減少しているといわれていますが、その背景には、やはり環境破壊が進んでいることもあるのでしょうか。

増井園長 地球温暖化など、環境破壊は、人類という一種類の生物が引き起こしたものです。他の動物にも大きな影響が出ています。以前から絶滅する動物はありましたが、近年はそのスピードが速くなっていますね。例えばアフリカゾウにしても、急激に数を減らしています。私が初めてアフリカに行った三十数年前には百三十万頭ぐらいたのが今はその半分ぐらいになってしまいました。

示するというのが主流でした。しかし、そのような展示法では実際の環境の中でどのように暮らしているかを伝えることができませんでした。また、「あんな狭い檻に閉じ込めてかわいそう」といった声が聞かれるようになりました。動物園の在り方も変わってきたわけです。現在では、当園のような生息展示を行う動物園も受け入れられていますが、当時はまだ珍しかったんですね。

豊田会長 来場者の特徴はどのようなものですか。

増井園長 当園の入場者数は、近年は横ばいですが、特徴はリピーターが五割と非常に多いことです。さらにこれまで動物園というお子さんが主体でしたが、当園の場合、年齢層は高く、シニアの方も多くいらつしています。

最近では、健康維持を目的にいらつしやる方も多いですね。自然が満ちていますから、森林浴を楽しみながら、動物を見て歩くので気持ちがよく癒されますし、ウォーキング効果もあります。毎週のように入園される方もいます。日本人はやはりとても草木や花が好きですので、もつと植物を植えていくなど工夫したいと考えています。

動物園は自己啓発の場にもなる

増井園長 私は、動物園が来場者の方にとら

さらに悪いことに、数が減れば減るほど、その動物の希少価値が上がり、高く売買されるという事情もあります。守ろう、保護しようとする人がいる一方で、密猟して高く売ろうとする人が後を絶ちません。インドネシアのバリ島には、カンムリシロムクという鳥が生息しています。飼い鳥としての人気が高いため、密猟が多く行われ、絶滅の危険性が出ています。当園では、このカンムリシロムクを飼育・繁殖し、生息地のバリ島に再導入するという保全事業をインドネシア政府と協力して行っていますが、再導入したカンムリシロムクも不用意に放鳥すれば密猟者に狙われてしまう、といった状況です。

豊田会長 その一方で最近になって、ようやく、環境問題に関心が高まるようになりました。タクシーに乗ると、運転手さんからあいさつ代わりに地球温暖化の話が出たりしています。日本をはじめ各国でも対策が進んでいます。が、実効性のある方策がどれだけ取られているかを考えると、疑問を感じます。

増井園長 そうですね。皆が事の重大さを認識して努力すれば、まだ危機を回避できるのではないのでしょうか。悲観するよりも、一人一人ができる範囲で、行動に移していくことが大切でしょう。横浜市では二〇二五年度までに、市民一人当たりの温室効果ガスの排



えるべきですね。豊かな自然がなければ私たちの経済も文化も暮らしも成り立ちませんから。**増井園長** そうですね。さらに素晴らしい点は、この取り組みが、動物の保護にとどまらず、自分たちの暮らしを守ることにもつながっているという点です。良好な環境や、安全な農産物は私たちの生きていく基盤です。さらに、多くの人に農産物を購入していただくことで、農業の振興にもつながりますし、住民の誇りにもつながっています。

豊田会長 日本は農耕社会に入ってから、ついこの間まで野生動物と、上手にすみ分けをしながら共生をしてきた歴史があります。別に昔の生活に戻ろうというのではなく、各地で今の時代に合わせた共生が行われればよいですね。

豊田会長 普段の生活の中で、意識を変えていくことも必要でしょうね。私は自分の庭を自然の野原に近い形にしたいと思い、現在かなり目標に近づいてきました。家族や近所からは少々冷たい眼で見られていると思いますが、鳥や昆虫がいろいろなやつてきて、一日中眺めていても飽きないくらいです。私は、都市の公園などでも、噴水に花壇といった画一的なものではなくて、ビオトープ(注1)を作り、さまざまな野草や昆虫が見られる環境を作っていくのがよいと思っています。

増井園長 生物の多様性があるって、私たちの暮らしが成り立つことを忘れてはいけませんね。

コウノトリが運ぶ 野生動物と人間の共生

増井園長 これからは、いかに野生動物と人間が共生できるかが大きな課題となると思います。兵庫県豊岡市では、コウノトリの野生復帰と共生の取り組みを、地域を挙げて行っています。この豊岡市は、コウノトリの最後の生息地でした。



たが、昭和四十六年に最後の一羽が姿を消してしまいました。その後、地元では、友好関係にあるロシアから幼鳥を譲渡してもらって育てたり、人工ふ化を行うなどして、数を増やしてきました。そして、平成十一年には、保護増殖や野生復帰等の専門的な研究を行うため、「兵庫県立コウノトリの郷公園」が開園され、私はその園長も兼任しています。

平成十七年には、繁殖したコウノトリの一部を試験的に放鳥しました。自然界での繁殖にも成功し、雛が一羽育ちました。

在来馬をもっと活用したい

豊田会長 共生ということでは、増井園長は日本古来の在来馬の普及にも力を入れていらっしゃると思いますね。日本には八種類の在来馬がいるようですが、私も三種類ほど見たことがあります。

増井園長 在来馬は数が非常に少なくなってきています。なぜかという点、現在の世の中には活躍する場所や機会がないからです。もともと使役馬として活躍していたのが、機械化が進み、役割がなくなったために、急激に数が減少してしまいました。

ですから、在来馬を絶やさないためには、活用することが必要なんです。もともと馬の姿が町中で見られるようになってほしいですね。

そこで、私は思いを同じくする人たちと「NPO法人 神奈川馬の道ネットワーク」という組織を立ち上げて、馬遊びが都会でできるようにする運動を行っています。また、六十歳近くなつてから、馬の競技の一つである「エンデュランス(注3)」も始めて、海外でのレースにも出ています。

豊田会長 国際大会でも大いに活躍されていますね。それだけでもアピール効果は大きなものがありますね。

増井園長 また、馬は子どもたちの教育にも効果的ではないかと感じています。あれほど、力が

豊田会長 コウノトリが生息するためには、地域社会の協力が必要でしょうね。

増井園長 その通りです。自然に帰すといっても、地域には人間の暮らしがあります。人間とコウノトリが一緒に暮らせる環境作り、共生できる社会を、地域の協力を得て整えていかなければなりません。

豊田会長 具体的にはどのようなことがなされているのでしょうか。

増井園長 試験放鳥の前から、コウノトリの餌場の確保や巣を作るための里山の整備や松の植栽などが行われました。餌場については、コウノトリの餌となるドジョウやタニシが地域の田んぼに住めるように、アイガモ農法(注2)に取り組むなどして、無農薬栽培、有機栽培が行われました。さらに地域のNPOが子どもを対象とする環境学習を実施したり、地域の人がそれぞれの立場でコウノトリの野生復帰運動を支援しています。

さらに、そのような無農薬で栽培された農産物は、兵庫県や豊岡市から認証され、ブランド化されています。ほかの生産物よりも手間暇がかかる分、それらの農産物は、値段は割高ですが安全性が高く、消費者の理解も広がり、売れ行きがいいですね。

豊田会長 少々値段は高くても、われわれが生存していくための、共通のコストとら



強く、体が大きい動物です。子どもの力ではどうにもなりません。人間の方が力が強い、小さな動物をペットにするのとは違います。きちんと扱わなければ、思い通りに動いてくれません。蹴ったり噛んだりすることもあります。その代わり、心を通わせて、大きな馬の上に乗せてもらえると楽しいし、癒されます。馬といい関係を作っていくために、子どもは多くのことを考えるのです。

豊田会長 馬と触れ合うことによる情操教育、素晴らしいですね。

ところで、在来馬もそうですが、植物好きの私としては、日本古来の植物の将来を、心配しています。昔はどこでも見られた日本種のタンポポも、都会ではなかなかお目にかかれなくなっていました。二輪草という花も

(注2) アイガモ農法：水田にアイガモを放して、除草・害虫の駆除をしてもらい無農薬でお米を作る農法。
(注3) エンデュランス：長距離(80～160km)を制限時間内で走る馬術競技。馬のマラソンとも呼ばれる。現在では国際馬術連盟の公式種目に認定されている。

(注1) ビオトープ：人為的に生物の生息環境を整備した空間。適度に草取りなどの人手を加えながら、自然が本来持っている力を引き出す。生態系の多様性を維持する上から、注目されている。

ほどの馬術競技での活躍をはじめ、挑戦の連続ですね。お仕事でも、女性初という形容詞が数々つき、バイオニアとして挑戦を続けていらしている。

増井園長 私の信条は「願えばかなう」。これがしたいと思うと、理解してくださったりする方が現れるなどして、自然と道が開けてきました。

豊田会長 天は思いのある人の味方をするのでしようね。そういう経験は多いのですか。

増井園長 何度も経験しています。例えば、上野動物園に就職するときもそうでした。押しかけるようにして、何度も頼み込みましたが、当初はそのたびに断られました。そのときは採用枠がなかったようなので、当然の話です。ところが、ダメなはずがないと勝手に思い込みまして、さらに何度もお願いを続けたところ、一年限定の臨時雇いで入れていただき、そこから運が開けました。

動物園に入ると、やがて、狭い檻に動物を入れて展示する、当時の動物園の在り方に疑問を持つようになりました。すると、だんだんと世の中の考え方が変わり、当園のような、自然の中で動物を飼育する動物園が出てきました。今は、コウノトリの野生復帰をはじめとして、人と動物の共生が大きな問題となっていますが、これも昔から心の中で考えてきたものです。

生息地が限られてきましたし、一昨年、小笠原諸島へ行った際には、幾種類かの固有種の植物が絶滅の危機を迎えていると聞きました。

増井園長 小笠原諸島の場合、ヤギの影響があるようです。飼育されていたヤギが野生化し、天敵もいないので、自己増殖を重ねて数が増え、貴重な植物を食い荒らしてしまったのです。

現在は、東京都が捕獲したようですが、崩れてしまった生態系をどう取り戻すかが課題となっています。動物も植物も、その地域固有の在来品種を大事にすべきですね。



国内の「オセアニアの草原」ゾーンはオーストラリア特有の乾燥した草原が広がる。向こうに見えるのはアカカンガルー

動物も親の影響が大きい

豊田会長 長年動物とかかわってこられて、動物の教育や子育ての在り方から、私たち人間にとつて参考となることはありますか。

増井園長 子どもは親の背中を見て育つといいますが、動物も同じように、親の姿を見習って成長します。親が神経質だと、子どもも神経質になるし、親が落ち着いていると、子どもも見習って落ち着いた性質を身につけます。それくらい親の影響というのは、大きいんですね。

最近、コウノトリの子別れを見ました。昨年七月に自然界で四十三年ぶりに誕生して、無事育った若鳥です。今年一月まで両親と共に暮らし、親に甘えていましたが、新たな繁殖期を迎えて、親から決然と自立を申し渡されました。もうどんなに親にすがろうとしても、きっぱりと拒絶され、少しずつ一人で暮らすことに慣れつつあります。

動物の子育てを見てみると、かわいがるときは捨て身で世話をし、独立のときには決然とした態度をとる。そのメリハリのよさに感心します。

豊田会長 親が果たす役割が大きいのは、動物でも人間でも同じですね。最近の人間社会で

シニアだからこそもっとアクティブに

豊田会長 現在、団塊の世代の方々が定年退職をされています。増井園長のご活躍を拝見して、シニアの方はとても勇気付けられると思います。

増井園長 私は年齢にかかわらず、やりたいと思ったときが始めるときだと思っています。何歳になったから無理だとか、ダメだとか限界を設ける必要はありません。むしろ、シニアの方が活動的になるべきだとさえ考えています。

以前、馬術競技の調教師に聞いたことがあります。馬は年を取れば取るほど、毎日きちんと運動させる。そうすれば、二十歳になっても、二十五歳になっても現役馬として、競技に出場できるというんです。逆に、年をとったからと、動かないとすぐに身体は衰えてしまいます。意欲を持ち、アクティブに活動していれば、年齢は関係ありません。今、乗馬クラブでも、シニアの方の会員が増えているんですね。とてもいいことだと思います。

ウォーキングもいいですね。最近私ごとと麻布大学の介在動物学研究室との協同研究で、動物園で動物を見ながら過ごすことは、ストレスを軽減し、高齢者の健康にとつてきわめて効果があることが分かりました。動物園は気

は親の子育て放棄などが問題になりますが、動物は大丈夫なのですか。

増井園長 基本的に生き物ですから、動物も人間も変わらないと思いますよ。先ほどお話ししたコウノトリだって、中にはしつかり夫婦げんかをするものもあります。子育てをほっぽりだして、けんかに明け暮れるものですから、人間があわてて、けんかの仲裁に入ることもあります。共通するところも、参考にすべきところもいっぱいあるのです。

願えばかなう！ やりたいことを積極的に行動

豊田会長 ところで、増井園長の人生は、先



1901年に発見された希少動物のオカビ。キリンのように長い舌で木の葉や新芽をたぐり寄せて食べる。園内の「アフリカの熱帯雨林」ゾーンで飼育

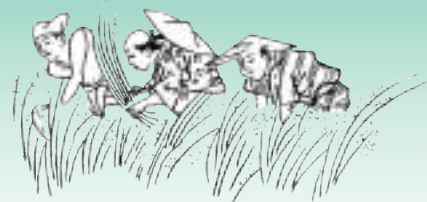
軽に行ける施設で、園内は安全ですから、もっと多くの方に日常的に活用していただきたいと思っています。

また、健康という観点では食も大切な要素ですね。私は食事も極力、玄米をとるようにな心掛けています。

豊田会長 最近はお米の効用が見直されているようですね。やはり日本人は日本古来の食物が合っているのかもしれない。いずれにせよ、年齢にかかわらず楽しく、活動的に暮らすことが重要ですね。本日は、動物園の役割から、人間と動物の共生や教育まで、幅広くお話を聞かすことができました。長時間にわたり、ありがとうございました。



対談を終えて、園内を散策。インド象の前で撮影



現在に受け継がれる、江戸の経済・商い

江戸東京博物館館長
竹内 誠

町民の生活の安定を第一に

災害は忘れたころにやってくる――。それは今も昔も変わりません。江戸時代も火事や洪水などの災害や、大規模な飢饉などが、全国で起こっています。これに備えて幕府は中期になると、その根拠地・江戸における災害などに対応した制度を確立しています。

この制度を整えたのは、寛政の改革を実施した老中・松平定信です。定信は、就任当初から、町民の生活の安定、社会秩序の維持などに力を尽くしました。老中への就任直前、天明の大飢饉に伴い江戸町民が蜂起し、米問屋を襲った「打ち壊し事件」を目の当たりにした定信にとつて、民衆蜂起の未然防止は、政策の重要目標となっていたのです。そんな定信が実施した政策の中でも、社会福祉や経済政策の観点から、現在においても高い評価を受けているものがあります。その一つが、七分積金令と、それに伴う町会所の設立でした。

町費節減の七割を共有金に

江戸の町は、住民による自治が行き渡っていた都市でした。治安の維持、道路、水道の維持管理、町火消しなどに関する業務が町内ごとに実施されていたのです。

これらの経費、いわば町の行政予算は町入用と呼ばれ、地主が負担していました。定信はこの町入用の節減・節約を奨励、さらに寛政三(一七九一)年には、節減した額の七〇パーセントを毎年積み立てさせることを命じました。これが七分積金令です。江戸中の町入用の年間節減額はおよそ三万両。その七〇パーセントですから、少なくとも二万両以上が非常時の備えとして毎年積み立てられることになりました。

このお金の積み立ては、町内ごとではなく、江戸中の町全体で、統一的に実施されました。新たに設立された町会所が、この積金を江戸の町民全体の共有金として管理・運用に当たったほか、飢饉や災害時に備えて粃米の備蓄も行いました。

大飢饉では大きな効果

江戸ではその後、火災、水災、震災、コレラなどの疾病流行、飢饉、米価騰貴など、幾多の非常事態が起りましたが、そのたびに、町会所では、町民への救済を行いました。特に全国的に大きな被害をもたらした天保の大飢饉では、町会所の行き届いた救済のおかげで、江戸の被害は比較的小さなもので済みました。町会所がなかった大坂では米価の高騰などにより、混乱の度を深め、やがては大塩平八郎が乱を起こすに至ったのとは大きな違いです。

記録では、町会所は天保四(一八三三)年、約二カ月の間に二回、大量の白米を飢民に支給しています。それによると、白米二万三千九百二十石を支出、延べ六十三万七千七百七十九人を救済したとあります。この数を見ただけでも、その意義、果たした役割の大きさが如実に分かります。

運用は商人の手で

町会所の果たした役割は、このような非常時の救済事業にとどまりません。平常時は集めたお金を、勘定所御用達と呼ばれる、十人の江戸豪商の手によって、手堅く運用していました。具体的には大店や屋敷など不動産担保がある上層町民や

武士階級に対し、低利で融資を行い、利息により、積金を増やしていたのです。さらに、粃米の購入や売り払いなどを通じて、米価調節も担っていました。

つまり、現在の金融機関としての役割、さらには物価安定のための中央銀行としての役割を同時に果たしていたともいえます。経済やお金という観点から見ると、これは大変大きなものでした。

定信は田沼意次の重商主義を否定し、重農主義を進めたといわれていますが、すでにこの江戸中期は貨幣経済が進展しており、商業を無視することはできませんでした。定信も田沼時代と同様に、むしろ商人を積極的に利用して、政策を進めていたのです。

東京の近代化に貢献

この勘定所御用達の手によって運用された積金は、災害時に活用、放出しても払底することはなく、結果、幕末まで運用されます。

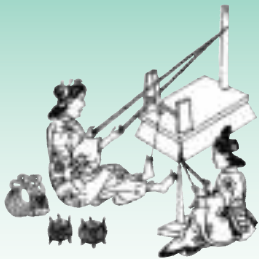
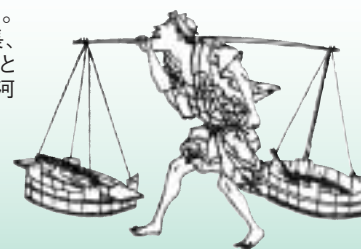
明治初年、新政府の調べでは、貯蓄高は百七十万円(積金と粃米の売り払いの合計)にまで達していたといわれています。これは幕府の一年間の予算と同じほどの大きな額です。



日本橋は明治6年に、江戸時代の七分積金を利用して石材と木材の和洋折衷形式の橋に改架された
(日本銀行貨幣博物館提供)

●たけうち まこと●

昭和8年(1933)東京生まれ。東京教育大学大学院博士課程修了。文学博士。専攻は江戸文化史・近世都市史。徳川林政史研究所主任研究員、信州大学助教授、東京学芸大学教授などを経て、現在東京学芸大学名誉教授。東京都江戸東京博物館館長、徳川林政史研究所所長、日本博物館協会会長なども務めている。著書は『江戸と大坂』『徳川幕府と巨大都市江戸』など多数。NHK大河ドラマなどの時代考証も担当している。



このコーナーでは、暮らしに身近な金融知識やその役立て方について、有識者から分かりやすくアドバイスしていただきます。今回は、社会保険労務士の森萩忠義さんに登場していただきました。

知っておこう 年金の基礎知識

社会保険労務士
森萩 忠義

●もりはぎ ただよし●東京経済大学経済学部卒業。東洋伸銅所、日本経営協会勤務を経て、森萩経営労務管理事務所を設立。金融機関を中心に年金相談や職員研修に携わる。

長期化する高齢期の生活と年金

わが国の平均寿命は、男子は約七十九歳（世界第二位）、女子は約八十六歳（世界第一位）で、世界の長寿国として高齢期の長期化が進んでいます（厚生労働省「平成十八年簡易生命表」より）。この長期化する高齢期を充実したものとするためには、その人に合った「ライフプラン」が非常に重要になります。ライフプランとは、家計収支プラン、心と体の健康管理プランおよび生きがいプランのことで、中でも今後の高齢期の生活を支える家計収支プランの主柱が年金なのです。

現在、わが国の高齢者世帯の所得の中で、恩給を含む公的年金の占める割合は約七割で、稼働所得は二割弱にすぎず（厚生労働省「国民生活基礎調査」より）、これは高齢者にとって公的年金がいかに重要であるかを示しています。

しかし、わが国の公的年金制度は、職業により加入制度が異なることや年金制度そのものが複雑なため、私たち国民には簡単には理解しにくいことも事実です。そこで、まずはご自分自身の身近な問題として、年金制度の主要な仕組みだけでも理解しておきましょう。

【図表1】公的年金制度の仕組みと加入区分

国民年金（基礎年金）		
第1号被保険者	第2号被保険者	第3号被保険者
自営業者および その配偶者・学生等で 20歳～60歳未満の人	厚生年金や共済組合等の加入者 （年金の受給できる65歳以上の人を除く）	第2号被保険者に 扶養されている配偶者で 20歳～60歳未満の人

厚生年金基金

厚生年金保険

共済組合等

（国家公務員共済組合
地方公務員等共済組合
私立学校教職員共済制度）



江戸のくらしと金銭観

現在に通じる江戸の商い

これまで見てきたように、江戸時代にはすでに、現代の貨幣経済システムの原型ともいべきものが明確に表れています。では、一般の庶民を対象にした商売の様子・手法はどうだったのでしょうか。

例えば広告宣伝。現在では不可欠なものです。江戸時代も活版に行われていました。当時流行した錦絵も、その多くは広告として利用されていました。中には、人気歌舞伎役者が描かれた中に商品

を入れ込んだりと、現在の有名人を起用したポスターなどに通じるものも多数あります。

ほかにも江戸の商売では、引札、現在の広告チラシが欠かせないものとなっていました。開店や大安売りなどの情報が引札によつて、消費者に知らされたのです。消費者に訴えかける宣伝文句を書く、現在のコピーライターのような職業もありました。

また、江戸を訪れる旅人のために「江戸買物独案内」というガイドブックまで売り出されました。出版した人は、各店から掲載料まで取っていたようです。

また、江戸時代には十九文店や三十八文店という露天商も現れました。これは、櫛や人形、筆などの雑貨をすべて十九文もしくは三十八文で売っていた店で、百円ショップをはじめとした均一商法の走りともいえます。現在の百円ショップはデフレ不況の中で人気が出ましたが、三十八文店や十九文店も景気停滞期に流行したというところまで似ています。

すでに江戸時代が終えんして百四十年。この四回にわたるシリーズで見てきたように遠い歴史のかなたのような江戸時代も、人々の生活、経済は私たちの時代に通じる



「足袋・仕立物商の引札」



「安売り引札」

どちらの引札にも縁起物の恵比寿と大黒天が描かれている。右は巻物の中に安売りの口上書きが書かれている。左は小判を吊るしたまゆ玉、かるた取りをする女性が描かれているほか、商店名が書いてある（いずれも日本銀行貨幣博物館提供）

公的年金制度の仕組み

1. 公的年金制度と加入区分

わが国の公的年金制度は、国民年金、厚生年金保険および三つの共済組合等（国家公務員共済組合、地方公務員等共済組合および私立学校教職員共済制度）から構成されています。

中でも国民年金は、公的年金制度の土台となる年金制度で日本に居住する二十歳以上六十歳未満のすべての人が加入します。また、厚生年金保険や三つの共済組合等は、その上乗せ給付をする年金制度と位置付けられています（【図表1】参照）。

(1) 国民年金

国民年金は、日本に居住する自営業者、学生や無職の人など二十歳以上六十歳未満の人が「第一号被保険者」として加入することになります。さらに、厚生年金保険と三つの共済組合等の加入者は「第二号被保険者」として加入し、その第二号被保険者に扶養されている配偶者で、二十歳以上六十歳未満の人は「第三号被保険者」として加入します。

(2) 厚生年金保険や共済組合等

厚生年金保険は民間企業に勤務する

老齢給付の場合、国民年金の「老齢基礎年金」は、原則として保険料納付期間と免除期間を合算して二十五年以上あり、かつ六十五歳であることが必要です。「老齢厚生年金」「退職共済年金」は、厚生年金保険（共済組合等）のみの加入期間の場合であれば、生年月日に応じて二十年から二十五年以上あり、かつ六十歳であることが必要です。これらの支給要件を満たしたときに初めて「年金の受給権」が発生することになります。

また、年金は、支給要件を満たすことで自動的に支給されるものではありません。その年金の「裁定請求手続き」をすることで初めて支給されることになります。

現在は、老齢基礎年金や老齢厚生年金の支給要件を満たしている場合には、老齢基礎年金は六十五歳、老齢厚生年金は六十歳となる三カ月前に社会保険業務センターから本人宛てに裁定請求書が送付されています。この裁定請求書には氏名・生年月日や加入歴等が印字されていますが、その確認とその他の必要事項を記入し、年金手帳等を添付して最寄りの社会保険事務所等に提出する必要がある、これを「裁定請求手続き」といいます。

七十歳未満の人が加入し、三つの共済組合等の国家公務員、地方公務員等および私立学校の教職員はそれぞれの共済組合等に参加することになり、国民年金にも同時に加入することから二重加入となっています。

なお、加入手続きは、第一号被保険者の場合は居住する市区役所・町村役場で自ら行いますが、厚生年金保険の場合は勤務する事業所が行うことになっています。

2. 年金給付と年金の裁定請求

(1) 年金給付の仕組み

公的年金制度の基本的な年金給付には、加入者が年を取ったときの「老齢給付」、加入者等が障害に該当したときの「障害給付」および加入者や年金受給者が亡くなったときの「遺族給付」があります。

国民年金のみの加入者は、国民年金から「基礎年金」を受給します。厚生年金保険や共済組合等の加入期間のある人は、「基礎年金」およびその上乗せ給付として厚生年金保険や共済組合等から「厚生年金」や「共済年金」を合わせて受給する、二重給付となっています（【図表2】参照）。

なお、障害給付や遺族給付は、障害に該当し始める時期や死亡の時期が不明であることから、事前に裁定請求書が送付されることはありませんが、裁定請求手続きは原則的に同じです。

3. 年金制度の加入記録の確認等

(1) 自分の経歴把握が前提

老齢基礎年金は二十歳から六十歳になるまでの四十年間の保険料納付済み期間や免除期間に応じて年金額が決定され、老齢厚生年金は厚生年金保険の加入期間とその間の報酬額に応じて年金額が決定されます。従って、個々人の年金制度への加入記録は、支給要件や年金額にも直接にかかわる問題です。そのため、「年金制度の正しい加入記録」の確認をするための前提として、自分の過去の経歴を、自分史を作るつもりで整理しておくことが必要なのです。

(2) 自分の加入記録と照合

昨年（平成十九年）、五千万件にも上る、本人の確認できない年金加入記録が大きな問題になりました。現在その名寄せ作業（氏名や生年月日等の確認作業）が実施され、その結果、まずは記録

【図表2】公的年金制度の年金給付の仕組み

＜老齢給付＞	＜障害給付＞	＜遺族給付＞	
退職共済年金	障害共済年金	遺族共済年金	⇐ 共済組合の加入者
老齢厚生年金	障害厚生年金	遺族厚生年金	⇐ 厚生年金の加入者
老齢基礎年金	障害基礎年金	遺族基礎年金	← 国民年金の加入者

(2) 年金の支給要件と裁定請求

年金給付（老齢・障害・遺族）には、それぞれ支給要件が定められ、その要件を満たすことが必要になります。

漏れの可能性が高い人には、昨年十二月から「ねんきん特別便」として、加入記録の確認のお知らせの発送が開始されています。

さらに、平成二十年四月からはすべての年金受給者に、平成二十年六月からはすべての加入者にも、加入記録のお知らせが送付されることになっています。

郵送されてきた年金加入記録と自分の経歴を整理した資料を照合することにより、未加入であった期間や厚生年金保険が未適用であった事業所の勤務期間などが確認でき、それらの期間等の疑問点は最寄りの社会保険事務所等で調べることができます。

また、「ねんきん特別便」とは別に、自分の年金加入記録を最寄りの社会保険事務所等で確認することもできますし、五十歳以上の方であれば、将来の自分の年金受給見込み額も社会保険事務所等で調べられます。

なお、社会保険事務所等に出向くときは、自分の経歴を整理した資料や現在所持しているすべての年金手帳（被保険者証）を持参することで、加入記録の訂正が可能となる場合もあります。

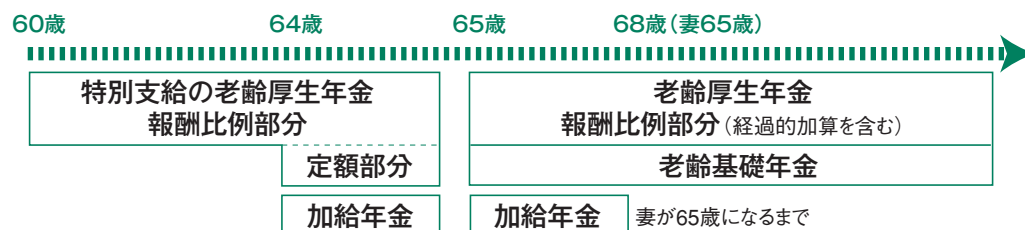
事例2 定年後の老齢厚生年金

私（昭和23年4月15生まれ）は、昭和46年4月からA社に37年間勤務し厚生年金に加入中ですが、60歳になった日に定年退職する予定です。

現在は、専業主婦の妻（3歳下）と2人暮らしです。定年退職後にどんな年金が受けられるのかについて教えてください。

受けられる年金については、年齢に応じて、いくつかの状況に分けられます。下の図を見てみましょう。

◆ あなたの受給できる年金



◆ 妻の受給できる年金



これを整理すると、年齢などに応じて、次の5つの状況が考えられます。

- ①60歳から報酬比例部分相当の老齢厚生年金が支給されます。
- ②定額部分は生年月日に応じた支給開始年齢の引上げにより64歳から支給されます。
- ③64歳(定額部分の支給開始年齢)から妻が65歳になるまで、配偶者の加給年金が支給されます。
- ④65歳からは老齢厚生年金(報酬比例部分)と老齢基礎年金が生涯支給されます。
- ⑤妻の65歳以上の老齢基礎年金には、夫の年金の加給年金に替えて振替加算が加算されます。

また、この場合におけるそのほかの要点としては、次のようなものが挙げられます。

- ①定年退職後に雇用保険の基本手当を受けるとその間は年金が支給停止されます(年金か基本手当かのいずれか選択となる)。
- ②定年退職後も継続して勤務した場合
 - a. 年金は、「在職老齢年金」が受給できるが、年金額と給与や賞与額に応じて減額されます。ただし、年金月額と総報酬月額相当額(給与額+過去1年間の賞与額の12分の1の額)の合算額が28万円以下の場合は、年金は全額支給されます。
 - b. 雇用保険は、定年退職前の賃金月額の75%未満の賃金額で継続雇用された場合は、60歳以降の賃金額の15%(上限額)の「高年齢雇用継続給付」が受けられます。
 - c. 「高年齢雇用継続給付」を受けた場合は、60歳以降の給与額の6%(上限額)が「在職老齢年金」から支給停止されます。

なお、年金制度のもう少し詳しい解説や、年金受給額の計算方法等については、金融広報中央委員会ホームページ「知るぽると」の中の「年金に関するQ&A」をご覧ください。

<http://www.shiruporuto.jp/life/nenkin/qa/index.html>

すでに申し上げたように、

年金制度は複雑で理解しにくいところもあります。

特に受給額算定の仕組みなどは、

年齢や加入制度によって算定方法が異なるなど、大変複雑です。

ここでは、具体的に理解できるよう、ケース・スタディとして、

2つの事例を基に考えてみます。



事例1 自営業者の老齢基礎年金

私たち夫婦は、親の自営業を受け継ぎ現在も自営業を営んでいます。私（昭和19年4月10生まれ）と妻（昭和21年10月25生まれ）は、結婚した昭和46年4月から国民年金に加入し60歳になるまで保険料を納付してきました。

私たち夫婦が65歳から受給できる年金額を教えてください。

	昭和39年4月(20歳)	昭和46年4月	平成16年3月(60歳となった前月)
夫	未加入 7年	国民年金の保険料納付33年(396カ月)	
	昭和41年10月(20歳)		平成18年9月(60歳となった前月)
妻	未加入 4年6カ月	国民年金の保険料納付35年6カ月(426カ月)	

老齢基礎年金の額は、平成19年度価格で792,100円が満額ですが、20歳から国民年金に加入するまでの未加入期間分の年金額が減額されます。具体的には、480カ月(40年・20歳から60歳になる期間で本来加入すべき期間の月数)で保険料を給付した月数を割った比率を、満額に掛けます。計算すると次のようになります。

◆ 夫婦の年金額(平成19年度価格)

夫… $792,100円 \times (396\text{カ月(保険料納付月数)} / 480\text{カ月}) = 653,483円…$

653,500 円

妻… $792,100円 \times (426\text{カ月(保険料納付月数)} / 480\text{カ月}) = 702,989円…$

703,000 円

将来へのまなざし

庭師



ひろみ
星 宏海さん (32歳)
庭師(造園業)

●プロフィール

【小学生】
当時住んでいた家の近所は自然が豊かで、特に樹木に触れるのが好きだった。それが、今の仕事の原点。

【中学生】
2年生のころから造園の仕事を手伝うようになった。父親が働く姿を間近に見ていた。
【高校生・専門学校生】
造園コースがある高校に進学。講義や剪定の実習などを習得。
造園の専門学校に進学し、幅広く庭造りの知識を身に付けた。

【就職】
大手の造園会社に就職し、現場監督として活躍。帰宅は深夜という毎日。新横浜駅前公園、よこはま動物園ズーラシアなど、大規模プロジェクトに携わった。

【修業】
父親の造園会社に職人として弟子入り。一から技術を学び直す。
最近では技術も向上。今年は寺の庭造りを設計から施工まで自分で行うチャンスにも恵まれ、今はその準備に余念がない。
また、所属する協会の会合にも積極的に参加し、最年少役員に抜てき。若手の庭師の集団「庭盛会」を組織するなど、業界内での活動も活発に行う。

父親に弟子入り 大手会社員から 職人の世界へ

このコーナーでは、プロフェッショナルとして生きていこうと夢を持つ若者に焦点を当て、その努力の姿を紹介します。
今回は、父親を師匠に持ち、庭師として修業を続ける星宏海さんを訪ね、お話を伺いました。

造園の手伝いは中学生のころから

日本の伝統的な庭造りはもちろん、現代的なガーデニング、植木の手入れなどを専門的に担う職人、それが庭師です。今回ご紹介する星宏海さんは、父親である親方に弟子入りし、今年で修業は九年目。父親が造園業を営んでいる関係から、中学二年生から夏休みや冬休みなど、長期の休みを利用して家業の手伝いをしていたといいます。「小さいころから樹木が好きなきともあり、楽しかったですね。家族で力を合わせて庭

たといいます。

「元請けの現場監督は、大きな権限があり、下請けの業者さんに対して、立場も上です。当初は、自分の下で働くどんな方にも誠意を持つて対応していましたが、やがて仕事の効率性ばかり考えて、手足のように使ったり、横柄な態度を取るようになってしまいました。そんな自分に嫌悪感を感じるようになったのです」

父親に弟子入りを決意

そんなとき、たまたま実家に帰省し、父親の仕事を見たのが、人生の転機となりました。「やはり職人の血が受け継がれているのでしょう。父親は、内部の小さな枝にどう日が当たるのかまで考えて、時間をかけて植木の手入れを行っていました。そのはさみさばきも、とても見事で、大いに衝撃を受けた

造りすることに、喜びも感じていました」

中学校卒業後は、造園コースがある地元の高校に入学。卒業後は、造園の専門学校に進学しました。

「専門学校では父親以外で初めて、第一線で働く方から講義を受けるなどして、具体的に造園について学びました。それまでは迷いもありましたが、造園の幅広さ、奥深さを知り、将来の仕事として具体的に考えるようになりました」

大手造園会社で学んだこと

専門学校卒業後、星さんは大規模な公園の造成などを担う大手造園会社に就職しました。

「父親が営む会社は少人数、担える仕事には限界があります。当時は、都市緑化などの規模の大きい仕事に興味があり、そのよ

けました」

庭師とは自らの感性や技術を注ぎ込む、クリエイティブな仕事だと気付き、職人として造園業に携わりたいと、父親の下に弟子入りすることにしたのです。

当初は、初心に帰って、技術を一から学ぶことに努めました。

「最初は植木の手入れ一つとっても、どうしても納得のいく仕事ができませんでした。懸命に努力を重ね、二年ほど経過したころのことです。ある日本家屋のクスノキの手入れを私が行うようにと親方から指示されました。それは、お客さんが長年育ててきた名木でした。大事な仕事を任せてもらったことに感謝し、懸命に手入れを行いました。幸い出来栄えもよく、仕事を終えたときの喜びや充実感は今でも覚えていています」



石の組み合わせを考えながら、石畳の道を作っていく。庭造りの中でも地道な作業の一つ



石があたかも初めからそこに存在したように、自然に見えるように据え付けるのが鉄則。事前に何パターンも頭の中に思い描いた上で、適した石を一番いい位置に据え付ける



竹穂(竹の幹以外の枝)を適量に束にして骨組みに取り付けていく。軽やかで温かな雰囲気を出す。節を揃えたり、枝の切り方に個性が出る

業界でも若手のリーダーとして活躍

最近では、多くの経験を積み重ね、腕前が飛躍的に上がったとのこと。お客さんからも、親方の息子としてではなく、一人前の職人として評価されることが多くなり、それがうれしいといいます。

また、近年は業界を盛り立てるために、積極的に所属する協会の会合などにも出席、若手では異例の役員に抜てきされたほか、技術の向上と親睦(しんもく)を目的に、同年代の庭師たちによる「庭盛会」という組織を立ち上げるなど、若手のリーダーとしても精力的に活動しています。



植木の手入れの風景。樹形を変えずに、木の特性に応じた手入れを行う。外側から切り口を見せずに剪定するのもポイント

将来への
まなざし

「父親のように、丁寧に庭造りに励んでいきたい」

「金融教育フェスティバル2008」を盛大に開催

このコーナーでは、毎回、金融広報中央委員会の最近の取り組みや活動内容を紹介してまいります。
今回は、日本銀行本店を会場として開催された
「金融教育フェスティバル2008 行こう！みんなのきんゆう大冒険」についてご紹介いたします。

金融広報中央委員会では、去る一月二十六日(土)、日本銀行本店を会場として「金融教育フェスティバル2008 行こう！みんなのきんゆう大冒険」を開催しました。このフェスティバルは、子どもたちとその保護者の皆さまや、幅広い年齢層の大人の方々が、金融や経済の仕組み、あるいは、暮らしに身近なお金の知識について、楽しみながら学べるイベントです。今回で三回目の開催となりました。

当日は、真冬の冷たい風の吹く中、約千八百名の方々にご来場いただきました。

今回のフェスティバルでは、子どもたちには「冒険」をキーワードに、おかねや金融の仕組み、

銀行の仕事について楽しく学べる体験型プログラムや、おかねクイズなどを、また、大人の方には、暮らしに役立つ身近なテーマを取り上げたセミナーや、金融教育に関する資料の展示・配布コーナーなどをご用意しました。



熱気溢れる会場内の模様

**銀行の仕事体験。
初めて「お給料？」がもらえた！
「知るぽると冒険広場」三つの
ミッションに挑戦**

このプログラムでは三つのミッションに挑戦することで、中央銀行の役割、銀行の仕事、江戸時代の金座のこと、小判やお札が「お金」として人々から信用され流通する仕組み、銀行に預金することの意味などについて学ぶことができます。

参加した子どもたちは、最初に、ミッションIへ。ここでは、見習中央銀行員として、まずはお札の数え方、次に破れたお札の引き換え基準について学びます。そして最後に採用試験。問題に「正解」すると、採用の証しとして「業務完了書」を受



真剣な表情で“仕事”に取り組む子どもたち

け取ります。ミッションIに参加した子どもたちは、先生の話に真剣に耳を傾け、見学していた保護者の方々も、傾きながら熱心にご覧になっていました。

続いて、江戸時代の金座を再現したミッションIIです。金座職



「知るぽると銀行」のカウンターで通帳を受け取る子どもたち

ードを窓口提出します。確認印を押した預金通帳を受け取って全てのミッションが終了です。

三つのミッションが終わると、子どもたちからは、達成した喜びの笑顔がこぼれていました。このプログラムは、子どもたちにとって、働いてお金を得ることの大変さ、お金の価値や信用の大切さなどについて考える、良いきっかけとなったのではないのでしょうか。

**ガチャピン、ムックと行く
知るぽると島たんけんツアー**
子どもたちが、ガチャピン、ムックと一緒に金銭の勉強！

「知るぽると島たんけんツアー」は、子どもたちがクイズに挑戦



クイズ第一問目、一斉に手が上がり、全員正解！

**「知るぽると金融教育教室」
も満員御礼**

ながらクイズに答えていました。

委員団体・関係団体のご協力による社会人向けのセミナー「知るぽると金融教育教室」を十三講座開催しました。講座では、専門家から、金融や保険・証券、家計・ライフプラン、消費者トラブルなど、暮らしに身近な幅広い分野の話を聞くことができますとあって、どのセミナーも大変な人気でした。中には複数のセミナーを受講する熱心な方もおられました。



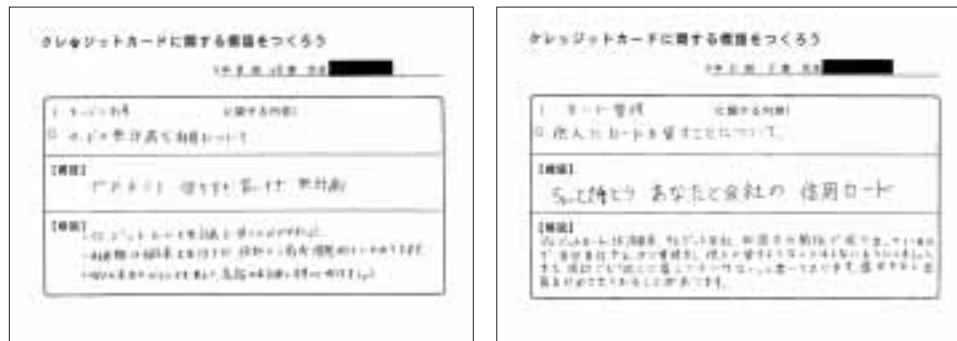
セミナーの模様

**金融教育の関連資料を
一堂に展示**

協力団体からご提供いただいた金融教育関連資料を展示して無料配布するコーナーを設けました。会場には百種類以上の資料が一堂に展示され、さらには見本市会場のようでした。また、パソコン教材コーナーでは、子どもたちが熱心にパソコンを操作して、いろいろな教材を興味深そうに試していました。

終わりに

今年の金融教育フェスティバルは、一月の大変寒い時期の開催となりましたが、多数の皆さまにご来場いただきましたことにつきまして改めてお礼申し上げます。



授業後に生徒が作成したアドバイスカード。生徒それぞれ着眼点異なる。標語だけでなく、説明文も詳しく書いている



右が、ゲストティーチャーの千葉県金融広報アドバイザー・佐藤陽子さん。契約と口約束の違いなどについて、分かりやすく紹介



左が、ゲストティーチャーの社団法人日本クレジット産業協会クレジット教育センター長の坂本史朗さん。クレジットカードの正しい使い方について、熱心に説明



当日は、体育科のフロアで公開授業を実施。約三百人もの来場者が見つめる中、生徒たちは、はきはきと発表した

②のグループについては、「ちょっと待て お前に貸したら 大惨事」という標語に 対して、生徒から「大惨事という言葉はあ いまい」とか「自分のカードだから貸したう ていいのでは」などの意見が出ました。それ に対し、ゲストティーチャーから「クレジット カードは契約によってカード会社が会員 に貸与しているもの。利用者もカードを自 分のものとして所有しているわけではない」と の説明がありました。それについて、生 徒たちから、「クレジットカードを人に貸す ことは又貸しに当たる。だからいけない」 などの意見が出ました。そして、最終的に は「大惨事」という言葉を「契約違反」と 変更し「ちょっと待て お前に貸したら 契約違反」をグループのアドバイスカード にしました。

①のグループについては、授業時間内に 共通のアドバイスカードを作ることではでき ませんでした。「考えて 今月給料 どれくらい」という標語について、「収入と 支出を考えた計画的な利用が大事」な どの意見が出ました。また、「計画的な使 い方とは、具体的にはどういうことなのか」という生徒の意見に対して、ゲストティー チャーは「目安として『収入（給料）の二割 まで』と決めて、使うことが求められる」と アドバイスを行い、生徒たちの理解も深

た。また、カードの種類や機能、働きも ワークシートに記入しながら学びました。 その上で、後半は将来利用する可能性 があるクレジットカードの機能、使える場 所、利用の仕組みなどについても学習し ました。

二時間目には、前の時間の学習を踏ま え、クレジットカードの利便な面を個人・ 班の順で発表しました。また、クレジット カードをめぐる発生している問題やトラ ブルについても学びました。

適切な使い方の標語 (アドバイスカード)を考える

そして、授業の最後にクラスを二つのグ ループ(以下、①グループ、②グループ)に分 け、それぞれのテーマにつき、アドバイスカ ード(適切な使い方に関する五・七・五の 標語と、その標語を受けてのより詳しい 説明文の提出を宿題にしました。

具体的には、①のグループでは「カードの 利用時に関する内容」として、「自分が買 いたいコートが売られている。給料が入れ ば何とかなるからカードを使って購入した い」という状況を設定し、クレジットカード と上手にかかわるためにはどうすべきか を生徒たちは標語にして考えました。

今回の授業を通じて、その効果はどこ にあったのか。まず、山崎先生は「授業で 学んだ、信用や契約、約束を守ることの大 切さなどは、まさに公民的分野の目標で ある『公民的資質の基礎を養う』ことに 合致します。また、従来、経済の学習では、 用語の解説や説明に偏りがちでしたが、 今回はより具体的に経済の一端を理解 できたと思います」と話しました。

また、全十四時間もの授業を実施した 福本先生は「生徒たちは、一連の授業を 通じて、これまで難しいと感じていた経 済の事柄を、より身近なこととしてとら えることができるようになったのではと 考えます。また、日々の新聞やニュースも、 より実感を持って理解できるようにも なったのではないだろうか」と話してく れました。

経済の一端を、実感をもって 理解できるようになった

②のグループでは「カードの管理・維持 に関する内容」として「友人から『ちゃん と後で返すし、使った分は払うからカード を貸してほしい』と頼まれた。親友だし、 貸してもいいかなと考える」という状況を 設定し、生徒は適切なアドバイスを考え ました。

設定した状況は、いずれも生徒たちに とって日常的なことではありませんが、授 業の内容などを踏まえて考えました。

公開授業で、活発に意見交換

いよいよ、公開授業に当たる三時間目の 授業となりました。まず、あらかじめ生徒 が提出したアドバイスカードからより印象に残るものを選定します(注)。それを基 に、授業では①、②のグループに分かれ、意 見を出し合います。その上で、内容の修正 を加え、最終的に一つを選んでグループ共 通のアドバイスカードとすることを目標に しました。また、その過程で専門的な立場 からのアドバイスや意見を取り入れるため、 ゲストティーチャーを招きました。

授業では、両グループとも、授業で得た 知識やこれまでの経験などを踏まえなが ら、活発な意見交換がなされました。

(注) ① のグループが選定したアドバイスカードは 「危険物 給料日前の クレジット」「今だけは 買って満足 将来は!?」「考えて 今月給料 どれくらい?」
② のグループが選定したアドバイスカードは 「ちょっと待て お前に貸したら 大惨事」「口約束 契約よりも 大事なの?」「信頼と お金は計りじゃ 計れません」

多重債務問題の背景と現状

（社）全国消費生活相談員協会 常任理事
秋田県金融広報アドバイザー・消費生活専門相談員・消費生活アドバイザー

菅美千世

このコーナーでは、私たちの暮らしに密接で、すぐに役立つ金融知識についてご紹介いたします。今回は、現在深刻な問題となっている多重債務問題の予防や対処法について（社）全国消費生活相談員協会常任理事の菅美千世さんに解説していただきます。

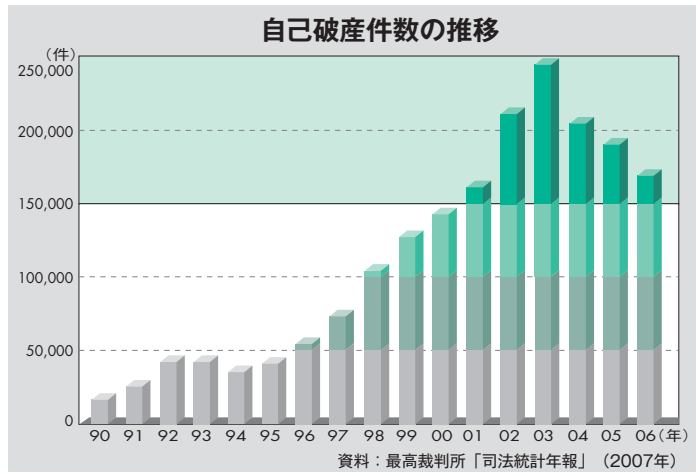
●すが みちよ●多重債務問題や、消費生活のための契約知識、悪質商法などについて精通、秋田市消費者センターにて消費生活相談を行うほか、講演などを通して幅広く情報提供を行う。

深刻化する多重債務問題

現在、複数の貸金業者からの借り入れを行い、返済が困難になっている多重債務者が増えています。全国信用情報センター連合会調べによると、平成十八年五月現在、貸金業者五社以上から融資を受けている利用者は、約二百三十万人、その平均借入残高も二百万円を超えているほか、自己破産者は年間十七万件に達しています。

このような中、平成十八年十二月、政府は貸金業法を大きく改正しました（コラム参照）。さらに、金融庁ではこの改正を受けて、「多重債務問題改善プログラム」を策定、国、自治体、関係団体が取り組むべき具体的な施策を掲げ、多重債務者相談マニュアルの作成や多重債務者向けの無料相談会の実施等の取り組みを要請しました。現在、これに基づき各機関では、従来以上に積極的に多重債務問題

の解決に努めるようになっています。



コラム

貸金業法の改正内容

貸金業法の主な改正内容は、①業務の適正化（参入規制、行為規制の強化）、②過剰貸付の抑制（年収の三分の一を超える借入れの禁止）、③上限金利の引き下げ、④ヤミ金融対策の強化です。これらは将来の多重債務者の発生抑制を狙いとしています。公布（平成十八年十二月）から概ね三年以内に完全施行されます。

借金返済のために借金する悪循環

多重債務に陥るきっかけは人それぞれですが、共通する特徴は、借金返済のために新たに借金をしてしまう悪循環に陥ってしまうこと。自殺、夜逃げ、家庭内暴力、犯罪などの原因にもなっています。多重債務に陥った場合の対処方法については後述しますが、最も大事なことは、普段から多重債務とならないように気を付けることです。

まず予防が大切です

私がお勧めしたいのは、まず、ご自分のお金の収支をチェックすること。日々相談を受けている経験上、多重債務者の多くが、家計簿を付けておらず、お金の収支をよく把握していないように感じます。家計簿を記帳するなどして、暮らしとお金の使い方のバランスについて考えたり、計画性のないクレジットカードの利用をしていないか、無駄をしていないかなどを、よくチェックしましょう。「毎日洗面」という方は一週間分をまとめてチェックしても良いでしょう。これが、多重債務の未然防止に役立ちますし、生活設計を考える第一歩となります。

また、連帯保証人になったばかりに、多額の借金をするに至り、多重債務となってしまう人も多くいます。親族や友人から「迷惑を掛けないから」と懇願されるとはつきり断りにくいのも事実です。しかし、保証人を頼むケースでは、既に多額の借金を抱えて、経済状況が相当に悪化している場合も多いのです。頼まれたら安易に保証人を引き受けるのではなく、具体的な事情をよく聞いて適切なアドバイスをすることを心掛けましょう。さらに、世間体を考えるあまり、親族が安易に借金を肩代わりして返済すること、多重債務状態を悪化させる要因となります。借金返済後、しばらくしてまた借金をしてしまう事例も少なくありません。

ほかにも、学校教育などで、借金した場合の金利やお金について考えさせる金融経済教育の強化を図ることが必要でしょう。金融広報中央委員会発行の「金融教育プログラム」（注）は、その実践に向けて、大いに参考となります。

多重債務問題は必ず解決できる

それでは、多重債務に陥った場合の解決方法について見てみましょう。主に次の四つの方法があります。

(1) 任意整理

サラ金やクレジットカードによるキャッシングでは、利息制限法の制限金利を大幅に上回る金利で貸し出している先もまだ少なくありません。そこで、利息制限法に基づいて引き直し計算をすると残債務額を減らすことができます。また、業者との取引期間が長ければ長いほど、過払い金の発生が見込まれ、業者に対して返還請求ができる場合もあります。その観点から、債務処理を行うことを、任意整理といえます。

(2) 特定調停

利息制限法に基づき引き直し計算をしても借金が残った場合は、簡易裁判所に特定調停の申し立てをします。費用も安く、利息制限法に基づいた債務整理ができます。

(3) 個人再生手続き

地方裁判所に個人再生手続きの申し立

てを行い、認可された再生計画案に基づき返済すれば、元本の一部が免除されます。せっかく建てた住宅を手放したくない場合などに利用されます。

(4) 自己破産

これらの方法でも返済が難しい場合は、地方裁判所に自己破産の申し立てをして破産宣告を受け、免責決定を受けます。そうすれば、債務は免除されます。

救済のための法整備が進んでも、相談するその第一歩を踏み出せないために、さらに状況を悪くしている人が多いのです。『相談をしよう』と背中を押してくれる人も必要ですね。多重債務問題は必ず解決できます。お近くの消費生活センター、弁護士会、司法書士会、日本司法支援センター（法テラス）などへ気軽に相談してください。

困ったら、ここに相談しよう！

- 消費生活センター、自治体の相談窓口
各地の消費生活センター、各自治体にお問い合わせください
- 日本弁護士連合会
電話 03-3580-9841
- 日本司法支援センター（法テラス）
電話 050-3383-5333
- 日本司法書士会連合会
電話 03-3359-4171

（注）『金融教育プログラム—社会の中で生きる力を育む授業とは—』は、現場の先生方および有識者の協力を得て、小学校、中学校、高等学校における金融教育のあり方や関連する教科等の指導計画例を紹介しています。

◆ウォーキング、長続きの秘けつ

ウォーキングの良さの一つは、無理なく日常

◆歩きながら、さまざまな発見ができる

全国でウォーキングイベントが開かれ、多くの人が参加している

私たちは日常的に歩く時間を少しずつ増やす「ライフスタイル・ウォーキング」を提唱し

写真好きな人であれば、カメラを持参し、気に入った風景や草花を撮つてみる。絵を描くのが好きであれば、スケッチブックを持つて行き、スケッチする。さらに、景色を楽しみながら俳句や短歌を詠んだりすると頭の中も活性化します。

このように、ウォーキングと趣味を組み合わせることで、楽しみも倍増しますし、歩くことに張り合いも出てくることでしょう。

◆テーマ性のあるウォーキングで
地域を詳しく知ることができる
近年、このような「歩きながら」得られる

しみに着目し、地域の史跡や自然、産業遺産などを巡る、テーマ性を持ったウォーキングが全国的に流行しています。いわば、「歩く道すがら」を楽しむという試みです。

このように、目的意識を持って、あちらこちら立ち寄りながら、じっくりゆくり地域を探訪できるのも、ウォーキングの魅力の一つです。

ウオーキングは体力的にも無理がなく、楽しさが無限に広がる趣味と言えるでしょう。

最近は、全国各地にサークルができています。か、全国規模のウォーキング大会も数多く開催されています。ぜひ、読者の皆さんもご近所から始めてみたいいかがでしょうか。

ウォーキングで 自然に触れる、地域に触れる

第4回 — ウオーキング



ウォーキングインストラクター 奥野 清歩

●おくの せいほ●1949年生まれ。「社団法人日本ウォーキング協会」専門講師、ライフスタイル・ウォーキングを実践、指導。全国各地でウォーキング教室・イベントのインストラクターとして活躍中。

広く県民の暮らしをサポート

秋田県金融広報委員会

電話 〇一八八二四一七八一四

秋田県金融広報委員会(事務局…日本銀行秋田支店)は、秋田県や財務事務所等と連携しながら、広く県民に金融経済情報の発信等を行っております。平成十九年度は、消費者教育・金融教育の強化に取り組み、さまざまな活動を行ってきましたが、今回はその中から「金融経済講演会」と「多重債務問題シンポジウム」について紹介します。

金融経済講演会

金融経済講演会は、暮らしに役立つ金融経済情報の提供と金融教育の重要性を訴えることを目的に開催しており、毎年好評を得ています。これまで、キャスターの生島ヒロシ氏(テーマ…「人生を楽しむためのお金のレッスン」)や住田裕子弁護士(テーマ…「気をつけよう!金融トラブル」)を



お招きしましたが、平成十九年度は十一月にファイナンシャルプランナーのいちのせかつみ氏を講師にお迎えし、「大人のための金融教育」というテーマで実施しました。いちのせ氏は、本業のほか、生活経済ジャーナリストとしてテレビなどでも活躍されている方ですが、講演は、ご自身の関西系のツツコミや金利に関するクイズなども交えながらの終始楽しい

雰囲気の中で進められました。参加者からは、「家計や投資の話など、ためになった」と大好評でした。

多重債務問題シンポジウム

当委員会では、秋田県の安全・安心まちづくり推進課や県生活センターとタイアップした事業も活発に行っていますが、昨年十二月には多重債務の解決策を話し合うため、県生活センターとの共催で「多重債務問題シンポジウム」を開催しました。秋田県は自殺率が十二年連続全国一位という深刻な問題を抱えています。その原因の約三割が「生活苦」といわれていることなどから消費者教育の必要性が一層高まっています。そうした現状もあって、シンポジウムには多くの方々の参加がありました。弁護士からは、秋田における多重債務問題の現状報告や法律的な解決策についての解説があったほか、パネルディスカッションも活発に行われました。中でも、多重債務経験のある講



師による体験談発表では、七千五百万円もの多額の借金を自ら情報収集して対策を講じることにより解決していった生々しい体験が具体的に紹介されるなど、参加者は、多重債務の怖さを知るとともに、正しい情報と教育の必要性を改めて確認し合いました。

当委員会ではこのほかにも、各地の講座に講師を派遣して金融教育等の普及に取り組んでいます。また、ポスター配付や各種イベントへの参加などにより金融広報活動のPRも行っています。今後とも、こうした活動を通じて引き続き広く県民の暮らしをサポートしていきたいと考えています。

老若男女が勉強中!!

和歌山県金融広報委員会

電話 〇七三三四四一・二三四二

和歌山県金融広報委員会は、和歌山県環境生活部県民生活課内に事務局を置き、県の消費者行政と連携し、また関係団体と協力しながら幅広く「金融経済情報の提供」や「金融経済学習の支援」を柱に活動を行っております。当委員会が行っている活動の一部をご紹介します。

くらしに身近な金融経済講座

当委員会では、平成十八年度より和歌山大学との共催で、生活に密着した情報をお伝えし、役立てていただく「くらしに身近な金融経済講座」を開催しております。大学は地域での連携・貢献、生涯学習を推進したい、金融広報委員会は広く県民に対し金融経済情報を提供したいというお互いの目的が一致し共催となりました。講座は十月から



三月までの毎月一回、県内二カ所で行っており、「和歌山県の経済情勢」「くらしの中の税」「投資信託のしくみ」など幅広い内容で実施しています。講座には、県金融広報アドバイザーや関係団体のご協力のもと講師を派遣していただき、二十歳代から六十歳代以上と広い年齢層の主婦や会社員または学校関係者などに対し講義していただいております。

受講者からは「大変分かりやすく講座で得たことを子どもや孫にも教えたい」「知らないことがたくさんあった。講座でもらった資料を基に家でも勉強したい」など好評をいただいております。

夏休み!金銭教育バス教室

夏休みに、小学生を対象に金や金融の仕組みを身近に感じてもらおうと「金銭教育バス教室」を実施しています。毎年たくさんのお申し込みを頂いており、抽選で参加者を決定している状況です。

バス教室では、日本銀行大阪支店を見学し、日本銀行の役割や歴史を学んだり、模擬札で紙幣の数え方を教わったり、クイズにも挑戦しました。また造幣局の見学ではコインの製造過程や、記念博物館で各国のコイン、昔の小判などを見ることができました。

車中においては金融広報アドバイザーがお金の仕組みや正しい使い方などをイラストやクイズを交えながら子どもたちに分かりやすく説明しました。



参加者のアンケートには「日常、目にはいるお金に子どもが少しでも関心を持つ機会ができた」「普段、見学できないような所へ行くことができお金の大切さを親子で認識できた」などの声を頂き、引き続き開催していきたいと思っております。

これからも少しでも多くの皆さま方のお役に立てるようさらに工夫を重ね、金融経済情報の提供、金融学習の支援を行い、また金融教育が学校をはじめ地域や家庭にも浸透していくよう、教育委員会と連携しながら取り組んでまいりたいと思います。



お金は魔物 大事に扱おう

群馬県 金融広報アドバイザー
清水 清勝

私は、数年前銀行員を退き、これまで別荘としていた群馬県吾妻郡嬬恋村に転居し、第二の人生を始めました。気力体力もまだ充分あるので、自分のキャリアを生かし社会貢献をしたいと考え、親戚が茨城県金融広報アドバイザーをしていたこともあり、自ら群馬県金融広報委員会に申し出ました。

活動の一部を紹介すると、小学校で、六年生と父兄を対象に「お金の上手な使い方」の話をしました。学校では、「お金」のことは児童だけでなく、親にも理解を深めてもらいたい趣旨があったようです。児童から、「親が必死に働いて作ってくれたお金のなかで、無駄遣いは今後絶対にしない。他人が持っている物をすぐ欲しがらず、お金は計画的に使う。悪い人には騙されないよう充分注意する」などの感想が寄せられました。私の話を聞いて子どもたちのお金の使い方が変わっていくのが楽しみです。商業高校では生徒、教員、父兄を対象に「身近な消費者トラブル」について話をしました。ワンクリック詐欺や通信販売など高校生に多い被害について説明しました。卒業後は社会に出る生徒が多いので、真面目に聞いてくれ、手応えを感じました。また、食肉学校では毎年「銀行取引」の講演を依頼されます。日ごろの銀行との付き合い方や融資を受ける難しさ、金融の仕組みや金融商品の特性など家業を継ぐ者へ経営者となる心構えを話します。裁判所の調停委員もしていますが、週二回の調停は多重債務者の救済が中心です。借金返済に苦しんでいる人を見ると、一人で悩んでいないで早く専門機関に相談してほしいと思いますし、金融・経済教育の必要性を日々感じています。

金融広報アドバイザー紹介

お金で学ぶ 金銭(金融)教育

鹿児島県 金融広報アドバイザー
江崎 紀久子



昔の言葉、「よく遊び、よく学べ」の真の意味は、「遊びと遊び」の一体化が最も効果的な学びの手法であるということであり、「遊びと学び」のバランスよい生活が子どもたちの健全育成には大切だということです。そこで、私の活動の一端を紹介し

ます。(テーマ「お金の役割って何だろう」。対象は小学三年生二十二人と親)

最も遊び好きなわんぱく世代、しかも当初対面のキッズたち、うまくすごろく盤の上に乗るかなと案じていましたが首尾は上々。お年玉をたんまり持っている一月のこの時期に大金のお札(模擬紙幣)四万二千円(二人分)を使って出し入れしていくゲームです。

支出の中には、やむを得ない物(お見舞い)や無駄遣い(ゲーム、おやつ等)を我慢できる物など考えて「すごろく」を進めていくものです。途中タイズを解いて賞金を稼いだり、払ったり一喜一憂コマを進めます。勝敗は、上がること、「残金」貯金の多い者の勝ち。グループ一位の賞品は、コマだった外国のコイン!持ち金が無駄遣いでどんどん減っていく心細さを味わったり、増えていく喜びも体験。

初めの話し合いで、「お金は多ければ多いほどよいか」の質問に「いいえ」と答えたり、「お金はどうしたら得られるか」には、「働く」と。素直で純な子どもたちでした。従って私にとってもこの時期にこそ「お金で学ぶ金銭教育」を始める絶好機かなと再認識する機会となりました。

読者の皆さまから お送りいただいたおたよりをご紹介します。 ありがとうございます。

●「巻頭特集」を読み、私たちが忘れてかけている昔の言い伝え、風景、物の大切さなど、昔の良さを改めて思いしました。

(徳島県・富田さん)
●「江戸のくらしと金銭観」を読んで、江戸時代の暮らしは、リサイクルが徹底され、環境型社会が実現されていたことが分かり、このことを忘れてはならないと思いました。

(熊本県・ハレさん)
●「そこが知りたい! くらしの金融知識」で紹介された「金融商品取引法の主なポイント」は非常に参考になりました。

(福島県・イガラシさん)
●「今すぐ役立つ きんゆう知恵袋」は、確定申告前でしたので、とても参考になりましたが、ページ数を増やして、もう少し詳しく説明してほしいかと思いました。

(三重県・ロビンちゃん)
●「趣味の散歩道」の紙飛行機は奥が深く面白かったです。大空の下子どもたちが夢中になる姿が目につかぶ

ようです。屋内で飛ばすイメージがあったので、私には斬新でした。

(福岡県・みやさん)
●「金融教育の現場レポート」で取り上げられた中学生の職場体験は、暮らしの中で何が大切なのか、大変なものを体験させてくれる本当の教育だと思いました。

(鳥取県・麦の芽さん)
●忙しい日々の中でも、ほっとさせてくれる記事があり、安らぎます。

(岐阜県・進藤さん)
●退職金の賢い運用の仕方や、ゆとりある時間を過ごすための工夫の仕方などを取り上げてほしいです。

(秋田県・高倉さん)
●「金融広報アドバイザー紹介」で取り上げられた「手品師の箱」でお金教育は、金銭感覚に興味を抱かせる教育として参考になりました。孫たちに早速やってみます。

(愛知県・岩井さん)
●文字が全体的に固いです。もっと文章に遊びを入れてほしい。
(愛知県・ちよくちゃんさん)

おたより募集します

『くらし塾 きんゆう塾』では、皆さまからのおたよりを募集します。次の事項をご記入の上、クイズにお答えいただいた上で、下記宛先までお送りください。平成20年5月30日までにご意見を下さった方の中から、抽選で10名の方に、「日めくりカレンダー」をプレゼントいたします。

また、いただいたおたよりを本誌に掲載させていただいた方には、「図書カード」をプレゼントいたします。

◆記入していただきたいこと

1. 今号で面白かった記事
2. 今号で「もう一工夫欲しい」と思った記事
3. 今後取り上げて欲しいテーマ
4. 一言ご感想
5. 知るぽるとクイズの答(左記参照)
6. ご住所・お名前・電話番号
7. 「読者のおたよりコーナー」への掲載希望の有無/掲載するに当たり、本名ではなくペンネームをご希望の場合はペンネーム

※いただいた個人情報は、プレゼントの発送、誌面への掲載に関してのご連絡についてのみ、使用させていただきます。

◆宛先

- ・郵送 〒103-8660 東京都中央区日本橋本石町2-1-1日本銀行情報サービス局内 金融広報中央委員会「くらし塾 きんゆう塾」担当宛
- ・メール info@saveinfo.or.jp
- ・FAX 03-3510-1373 金融広報中央委員会「くらし塾 きんゆう塾」担当宛

知るぽるとクイズ

問 公的年金に当てはまらないものは、次のどれでしょう?

答えの選択肢

- ①厚生年金
- ②個人年金保険
- ③私立学校教職員共済制度
- ④国民年金

(解答は次号に掲載します)

前号の答え

②所得税

確定申告では、納税者が1年間の所得金額とそれにかかる税額を計算し、税務署に申告書を提出して「所得税」として納税します。



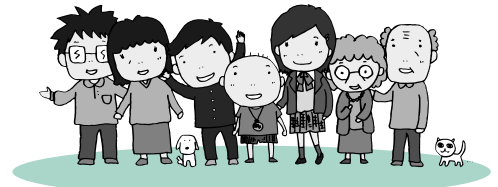
ゴールはすぐそこ！ 目標に向かって、駆けていく子どもたち

桜が舞う中、ゴールテープを目指して駆け抜ける短パン・運動服姿の子どもたち。この印象的なポスターは、昭和26年の3月に実施された「25年度目標達成特別貯蓄運動」において掲示されたものです。この運動は、ポスター内に記されているように、昭和25年度の貯蓄目標額3,400億円を目指して実施されました。

先頭の子どもも、後ろの子どもも、ゴールを目指し、懸命に走っている様子がうかがえます。私たちの現在の暮らしも子どもたちが走り抜いたこの道の延長線上にあるのかもしれない。

平成20年度の「活動方針」を発表しました

金融広報中央委員会では、平成20年度の活動方針を発表しました(20年3月)。新年度も、金融知識普及と金融教育を両輪とした活動に取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



近年、国民の暮らしを取り巻く金融環境は大きく変化しております。すなわち、新たな金融技術の活用も含め、様々なリスクを内包する金融商品が増加し、幅広く販売されるようになっていきます。こうした中で、様々な金融商品を正しく理解するためには、より高度な金融知識が必要となってきました。一方で、金融詐欺商法が依然として横行しているほか、インターネットや携帯電話を媒介とした若年層への被害の波及など、基本的な金融知識の不足に起因した金融トラブルが多発しており、金融知識の普及、金融教育の必要性は、これまで以上に高まっています。

このような環境のもと、半世紀以上の長きに亘り中立・公正な立場からこの分野で活動してきた当委員会に対する期待は引続き大きいものと思われます。当委員会では、前年度のテーマである「基本を多くの人に伝える」から、もう一步働きかけを進める意味を含め、「**みんなで学ぼうお金の知識**」を20年度の新たな活動テーマとして、委員団体との協力の下、金融知識普及と金融教育を両輪とした以下の重点施策について取り組むことといたします。

<重点施策>

① 学校向け：金融教育実践に向けての対応

- 金融教育実践強化を目的とした金融教育ガイドブックの拡充
- 教員対象セミナー・研修等の開催、支援強化
- 作文・小論文コンクール、金融教育公開授業の一層の充実
- 児童・保護者向けHPコンテンツ「おかねのね」の利用促進

② 一般向け：金融情報の発信力強化

- テレビCM放送継続等「知るぽると」の知名度向上への努力
- HPコンテンツ、刊行物の充実と情報発信の一層の推進
- 委員団体と協力して行う金融教育フェスティバルの継続開催
- 情報共有の強化等を通じた各地委員会活動の支援強化

なお、当委員会の活動を進めるに当たり、各事業のあり方を必要に応じて見直すとともに、近年この分野で活発に活動している各種機関・団体等との連携を強めて参りたいと思います。

くらし塾 きんゆう塾 Vol.4

平成20年4月発行
編集・発行 金融広報中央委員会
編集協力・印刷 廣済堂
© 金融広報中央委員会 禁無断転載

【編集後記】 春は、新生活を迎える方も多いシーズンですね。昨夏に創刊した「くらし塾 きんゆう塾」も、読者の方々からのお便りに励まされながら、夏・秋・冬・春号を発行し、四季を越えることができました。次号以降も、1年生から2年生になったフレッシュな気持ちで、工夫しながら編集に取り組みたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本誌は全国の金融広報委員会等でお配りしています。個人の方の定期購読はお取り扱いしておりませんのでご了承下さい。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で知るぽるとホームページ上に掲載していますのでご利用ください。(http://www.shiruporuto.jp/about/kurashijuku/index.html)

◎都道府県金融広報委員会一覧◎

委員会名	〒	住所	電話番号
北海道金融広報委員会	060-0001	札幌市中央区北1条西6-1-1	011-241-5314
青森県金融広報委員会	030-8570	青森市長島1-1-1	017-734-9209
岩手県金融広報委員会	020-0021	盛岡市中央通1-2-3	019-624-3622
宮城県金融広報委員会	980-8570	仙台市青葉区本町3-8-1	022-211-2523
秋田県金融広報委員会	010-0921	秋田市大町2-3-35	018-824-7814
山形県金融広報委員会	990-8570	山形市松波2-8-1	023-630-3101
福島県金融広報委員会	960-8614	福島市本町6-24	024-521-6355
茨城県金融広報委員会	310-8639	水戸市南町2-5-5	029-224-2734
栃木県金融広報委員会	320-8501	宇都宮市塙田1-1-20	028-623-2151
群馬県金融広報委員会	371-8570	前橋市大手町1-1-1	027-226-2273
埼玉県金融広報委員会	333-0844	川口市上青木3-12-18 SKIPシティ A1街区2F	048-261-0995
千葉県金融広報委員会	260-8667	千葉市中央区市場町1-1	043-225-7141
東京都金融広報委員会	103-8660	中央区日本橋本石町2-1-1	03-3277-3788
神奈川県金融広報委員会	231-8588	横浜市中区日本大通1	045-210-3874
山梨県金融広報委員会	400-0032	甲府市中央1-11-31	055-227-2419
長野県金融広報委員会	380-0936	長野市岡田178-8	026-227-1296
新潟県金融広報委員会	951-8622	新潟市中央区寄居町344	025-223-8414
富山県金融広報委員会	930-0046	富山市堤町通り1-2-26	076-424-4471
石川県金融広報委員会	920-8678	金沢市香林坊2-3-28	076-223-9519
福井県金融広報委員会	910-8532	福井市順化1-1-1	0776-22-4495
岐阜県金融広報委員会	500-8570	岐阜市藪田南2-1-1	058-213-9257
静岡県金融広報委員会	420-8720	静岡市葵区金座町26-1	054-273-4112
愛知県金融広報委員会	460-8501	名古屋市中区三の丸3-1-2	052-954-6166
三重県金融広報委員会	514-0004	津市栄町1-954 三重県栄町庁舎3階	059-246-9002
滋賀県金融広報委員会	520-8577	大津市京町4-1-1	077-528-3412
京都府金融広報委員会	604-0924	京都市中京区河原町通二条下ル一之船入町535	075-212-5151
大阪府金融広報委員会	530-8660	大阪市北区中之島2-1-45	06-6206-7748
兵庫県金融広報委員会	650-0034	神戸市中央区京町81	078-334-1129
奈良県金融広報委員会	630-8501	奈良市登大路町30	0742-27-8704
和歌山県金融広報委員会	640-8585	和歌山市小松原通1-1	073-441-2342
鳥取県金融広報委員会	680-8570	鳥取市東町1-271	0857-26-7160
島根県金融広報委員会	690-8553	松江市母衣町55-3	0852-32-1509
岡山県金融広報委員会	700-8707	岡山市丸の内1-6-1	086-227-5128
広島県金融広報委員会	730-0011	広島市中区基町8-17	082-227-4268
山口県金融広報委員会	753-8501	山口市滝町1-1	083-933-2608
徳島県金融広報委員会	770-8570	徳島市万代町1-1	088-621-2258
香川県金融広報委員会	760-0023	高松市寿町2-1-6	087-825-1104
愛媛県金融広報委員会	790-0003	松山市三番町4-10-2	089-933-6308
高知県金融広報委員会	780-8677	高知市本町3-3-43	088-822-0114
福岡県金融広報委員会	810-0001	福岡市中央区天神4-2-1	092-725-5518
佐賀県金融広報委員会	840-0815	佐賀市天神三丁目2-11 アバンセ3階	0952-25-7059
長崎県金融広報委員会	850-8645	長崎市炉粕町32	095-820-6112
熊本県金融広報委員会	862-8570	熊本市水前寺6-18-1	096-333-2291
大分県金融広報委員会	870-0023	大分市長浜町2-13-20	097-533-9116
宮崎県金融広報委員会	880-0805	宮崎市橋通東4-3-5	0985-23-6241
鹿児島県金融広報委員会	890-8577	鹿児島市鴨池新町10-1	099-286-2544
沖縄県金融広報委員会	900-8570	那覇市泉崎1-2-2	098-866-2187

知るぽると
金融広報中央委員会

ホームページアドレス
<http://www.shiruporuto.jp/>

「知るぽると」は金融広報中央委員会の愛称です。
金融の情報が集まる「港」であり、わかりやすい金融の知識への身近な「入口」です。